

議第 7 号議案

子どもたちの学び、心身のケア、安心安全な教育環境を保障するために
少人数学級の実施を求める意見書

子どもたちの学び、心身のケア、安心安全な教育環境を保障するために少人数学
級の実施を求める意見書を、ふじみ野市議会会議規則第 14 条第 1 項の規定により
提出します。

令和 2 年 9 月 17 日

提出者 ふじみ野市議会議員

足 立 志津子

賛成者 ふじみ野市議会議員

塚 越 洋 一

伊 藤 初 美

新 井 光 男

床 井 紀 範

ふじみ野市議会

議 長 小 林 憲 人 様

子どもたちの学び、心身のケア、安心安全な教育環境を保障するために
少人数学級の実施を求める意見書

新型コロナウイルス感染症から、子どもと教職員の健康と命をいかに守っていくかは重要な課題です。3ヵ月もの休校で、子どもたちは学習の遅れと、かつてない不安やストレスをため込んでいます。子どもの心身のケアをしっかりと行うことは学びを進めるうえでの前提です。

感染症対策のために教職員の増員が必要ですが、政府の第2次補正予算では3,100人とあまりに少なく、しかも高校は除外されています。3,100人では全国の小中学校の10校に一人しか教職員が配置されず、政策効果は限定的です。「小中高校の教職員を増員し20人程度の授業を」と各界が声をあげています。

全国知事会、全国市長会、全国町村会の地方3団体は7月3日、萩生田光一文部科学大臣に少人数学級を求める緊急提言を提出しました。この提言では、「公立小・中学校の普通教室の平均面積は64㎡であり、現在の40人学級では、感染症予防のために児童・生徒間の十分な距離を確保することが困難」だとして、「少人数編制を可能とする教職員の確保」を求めています。さらに、「今後予想される感染症の再拡大時にあっても、子どもの学びを保障し」「学校の臨時休業等の緊急時においてもオンライン学習ができる環境を充実させ、最適な学びを実現する」ためには、「少人数によるきめ細やかな指導体制が必要である」として、教職員の確保やICT教育人材の配置、財政措置の拡充などを強く要望しています。

政府のいわゆる「骨太方針2020」も、「少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備」について「関係者間で丁寧に検討すること」を求め（令和2年7月17日閣議決定）、来年度予算編成にかかわる重要な局面となっています。

ふじみ野市においても、クラスの人数を半分にした6月の分散登校を経験した教職員や子どもたちから、「一人ひとりの声がよく聞こえて静かに学習が進められた」「ノートを丁寧に見てあげられた」「子どもたちの本音を聞いて心のケアに努めながら、学習を進めていける」「3密じゃないから安心」などの感想が語られています。

よって政府は、子どもたちを感染から守り、仲間との共同の学びと豊かな学校生活を送れるために、今こそ少人数学級に踏み出すよう強く求めるものです。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和2年 月 日

埼玉県ふじみ野市議会

提出先
内閣総理大臣
財務大臣
文部科学大臣